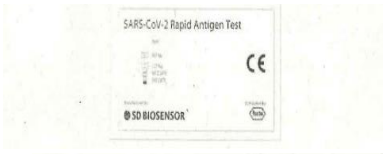
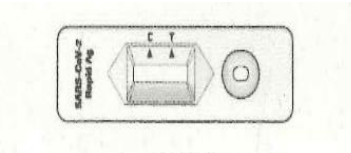
別紙

抗原検査キットを利用する際の検体採取の方法に関する説明図

1 測定準備

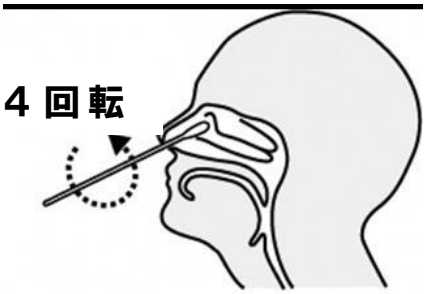




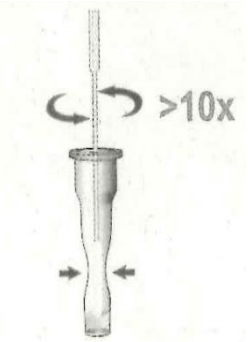


①アルミパウチに記載されている使用期限を確認します。
②アルミパウチを開封し、テストデバイスと乾燥剤を取り出します。
③テストデバイスに破損等物理的な異常がないか確認してください。また、乾燥剤のインジケーターが黄色であることを確認してください。

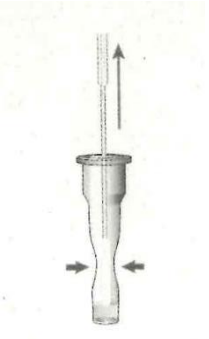
2 検体採取



①キット付属のスワブ(綿棒)を鼻腔入り口から2cm 程度、粘膜部分をぬぐうようにしてゆっくり挿入します。
鼻腔壁にスワブを約4回(15秒間)回転させ、粘着表皮を採取します。滅菌スワブの先端がほかの部位に触れないように注意深く引きだします。同じスワブで、反対の鼻腔も同様の操作を繰り返します。



②スワブを抽出用バッファーのチューブに浸します。
バッファーチューブの外側からスワブの頭部をつまみ、試料を絞り出すように、スワブを10回以上左右に回転させ、上下に動かしかきまぜます。



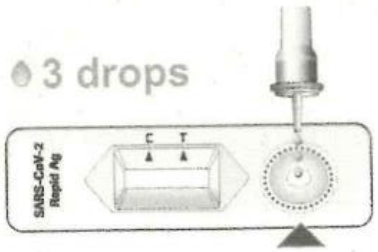
③チューブの側面からスワブの頭部をつまみ、試料を絞り出すようにスワブを引き抜き、スワブから試料を抽出します。

④バッファーチューブのノズルキャップをしっかり
と閉めます。



3 測定

①テストデバイスの検体滴下孔に抽出した
試料3滴を滴下します。

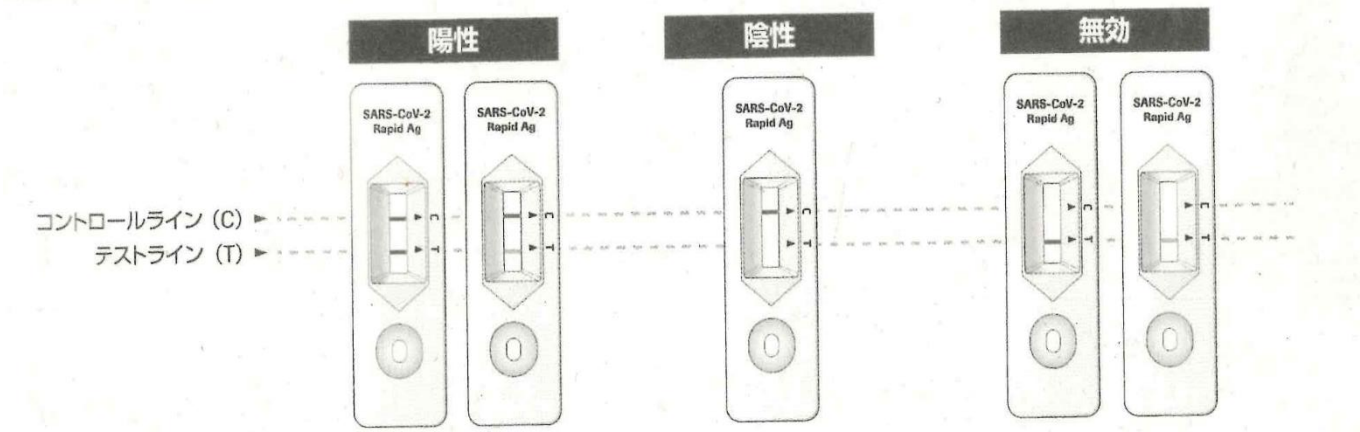


②15分～30分の間に測定結果を判定します。
＜注意！＞
陰性の判定はコントロールラインが早めに出現した場合であっても、必ず15分以降に行ってください。
また、30分以上経過した後の判定は正確な測定結果が得られない可能性があります。

4 判定

①判定窓の上部にコントロールライン(C)が認められた場合は、測定が正しく行われたことを示します。コントロールライン(C)が薄い場合でも、認められる場合は測定が適切に行われたと見なすことができます。コントロールライン(C)が認められない場合、測定は無効です。

②測定結果が陽性の場合、判定窓の下部にテストライン(T)が出現します。テストライン(T)が非常に薄いか均一でない場合も、測定結果は陽性と判定してください。



（注意事項）

テストライン（T）が薄い場合であっても、コントロールライン（Ｃ）が認められていれば、陽性と判定してください。

5　報告

検査結果については、結果が分かり次第、学校に報告してください。

なお、陽性の判定が出た場合は医療機関を受診し、医師の指示に従ってください。

※下記同意書については、一度御提出いただければ、二度目以降の提出は不要です。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ きりとり線 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

抗原簡易キット実施同意書

学校長宛

抗原簡易キットの実施方法について確認しました。

実施について、同意します。

令和3年　　月　　日

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

保護者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿